

箸・スプーン・湯呑みの運用マニュアル

2023.08.01 更新

1. 具体的な運用方法

- ① 箸・スプーン（幼児はスプーン・フォーク）は、患者ごとにトレーにのせて配膳する。
湯呑みは、病棟別に患者数分をまとめてトレーにのせる。
- ② 衛生面を考慮し、食事の時にのみ使用する運用とし、下膳時には必ず回収する。食事以外でお茶を飲む場合は、患者に湯呑みを持参してもらう。
- ③ きざみ食・ミキサー食・流動食には、箸はつけず、スプーンのための提供とする。まれに主食で麺類の提供がある場合は、必要に応じ箸もつける。
- ④ 先割れスプーンは、病棟より請求があった場合に配膳する。
- ⑤ 大人で小スプーンをつける場合は、基本的に通常スプーンはつけないが、介助等必要に応じ、適宜通常スプーンをつける。

2. 入院のしおりへの記載

入院のしおりに箸・スプーン・湯呑みの運用の注意事項を記載する。

<<注意事項>>

- ① 食事には箸・スプーン・湯呑みを提供すること
- ② 食事を摂るときのみの使用で、食事が終わったら下膳をすること
- ③ 食事以外でお茶を飲む場合は、湯呑みを持参すること